

所在地：長崎県新上五島町 選定年月日：平成24年9月19日 面積：976.9ha 選定基準：二(一(六)(八))

(1) 概要

崎浦は、五島列島北東部に位置する中通島(なかどおりじま)北東部の地域で、赤尾、江ノ浜、友住(ともすみ)、頭ヶ島(かしらがしま)の集落から成ります。崎浦で露頭する五島層群に属する砂岩は層状に削げて加工しやすいため、石材業が営まれてきました。

崎浦は漁業が盛んで、近世には捕鯨が行われました。幕末には捕鯨が衰退する一方で、長崎・平戸での建築用材の需要が高まり、崎浦では採石業と石材加工業が盛んとなりました。当地の砂岩は広く流通し、出荷先では五島石と称されていたとも言われます。石切場は、頭ヶ島とこれに面するロクロ島を中心に、運搬船が寄せられ、平坦な作業場を確保できる海岸部に限られました。赤尾、江ノ浜、友住では、石切場に隣接する集落に多くの石工が居住しました。昭和25~30年頃に最盛期を迎えましたが、現在も採石が行われています。

集落には、腰板石を張り巡らせた家屋や練り積み壁を有する納屋、石敷きの路地や階段が多く残ります。これらに加え、防風石塀や石垣、神社の鳥居や灯籠、墓石、石碑、石祠、石鉢等が集落の至る所に見られ、石切場とその跡とともに、当地が砂岩の産地であり消費地であることを伝えます。また、集落の石工や信徒も建設に携わった切り石積みの頭ヶ島天主堂(大正8年(1919)建築)は、当地の信仰の歴史も伝えます。

新上五島町崎浦の五島石集落景観は、幕末以降に、五島列島のみならず、長崎・平戸等、西北九州一帯に流通した五島石の生産地である集落の特徴を示し、貴重です。



海岸沿いに展開する集落(赤尾集落)。
宅地、その周辺の水田や畑地、その背後の里山から成る



高さ6尺の腰板石を備えた家屋

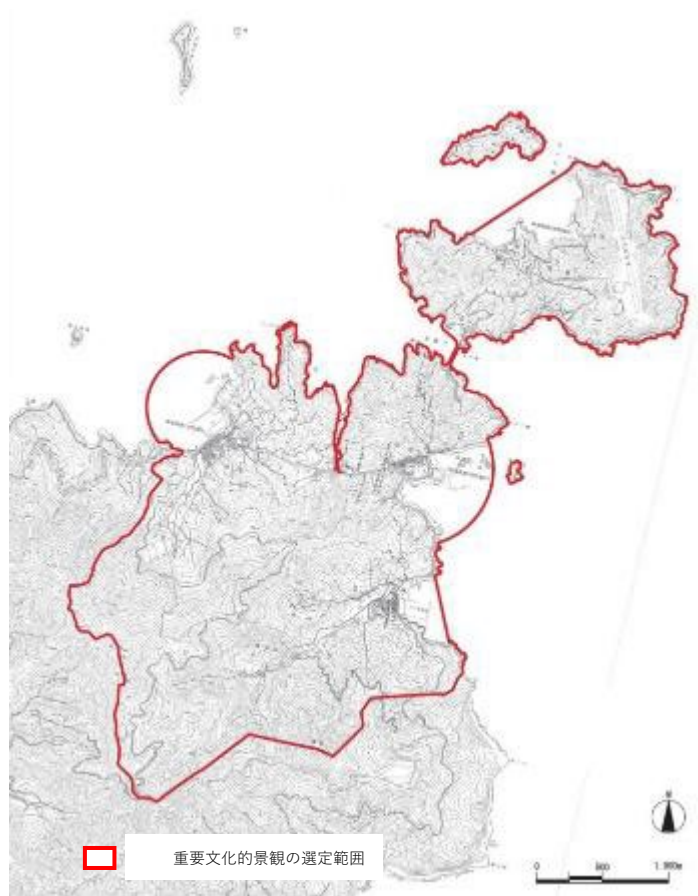


幕末に潜伏キリシタンの移住があった頭ヶ島集落に
禁令解除後に築かれた頭ヶ島天主堂



「割り矢」の跡が残る石切場(採石場)跡

（２）選定範囲



重要な構成要素：53件

（３）選定による効果

選定前までも、日本では珍しい石造りの教会堂である頭ヶ島天主堂が建つ頭ヶ島の白浜地区への来訪者は居ましたが、空港の定期便が廃止されると頭ヶ島への来訪者は限られていました。

選定後には頭ヶ島の集落が世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として登録され、景観に配慮した空間づくりや、老朽化した空き家をガイダンス施設へ改修することで来訪者へ文化的景観の価値を広く周知しています。

また、白浜地区以外への周遊を促す仕組みとして里道を整備したことで、トレッキングなどのイベント開催や地元の学生を対象としたふるさと教育での体験学習などに活用されています。



島のふれあい館



ふるさと教育

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 上五島の文化的景観保存調査報告書（平成22年3月、新上五島町）
- 新上五島町崎浦の五島石集落景観保存計画（平成23年10月、新上五島町）
- 文化的景観整備活用計画（平成26年3月、新上五島町）
- ホームページ

<https://official.shinkamigoto.net/culturallandscapes.php>

(5) 活用事例

事例42-07 ①

島の歴史風土と暮らしを伝えるガイダンス施設と里道の整備

文化庁補助金

●行政による取り組み

町として、集落内の周遊促進と交流の場の創生を目的とした整備を行いました。

頭ヶ島の白浜地区にある老朽化した空き家を、重要文化的景観のガイダンス施設「島のふれあい館」として改修しました。屋内床下にはサツマイモを保存するためのイモガマが、庭にはイモを蒸すためのジロやそれを干すヤグラが作られ、小学生の郷土学習などにも用いられています。また、集落の古写真や文化的景観の説明板などを展示しています。

島のふれあい館を拠点に、頭ヶ島の各地区への周遊を促すため、昔から使われている里道4路線の整備を行いました。現在の里道を活かすことを基本方針とし、コンクリート舗装は行わずにスニーカーで歩けるよう地面をならし、傾斜地では手すりとなる木はあえて伐採せず、また景色に溶け込むよう極力地域の材料を使用しました。職人の手作業を基本に、現場で話し合いながら施工を行いました。案内サインや、眺望デッキも設け、安心して楽しめる環境を整えました。

この取り組みは文化的景観の持続的継承において、保存と活用の均衡がとれた着実な整備手法を提示するものとして、先駆的な業績であると評価され、令和4年度に「日本イコモス賞」を受賞しました。

✓ 日本イコモス賞（令和4年度）



島のふれあい館



湯気上げるジロと体験学習を行う児童



あまり使われず、荒れがちであった里道



周囲の石積みに調和する小ぶりな石を用いて整備

団体等情報：新上五島町ホームページ 島のふれあい館
https://official.shinkamigoto.net/goto_chosei_full.php?eid=03440&wcid=100

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を
引き出す

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

事例42-07 ②

住民とともに作成したマップを手楽しむ、里道歩き

●行政と住民等の協働による取り組み

頭ヶ島の集落において整備された里道（事例42-07①参照）を活用した周遊促進のために、「頭ヶ島文化的景観散策マップ」を作成しました。マップは島の玄関口である有川港ターミナル内に展示しており、現地に行きたくなるように、写真ではなくイラストで景色を伝える工夫が行われています。

マップの作成にあたり、行政と地元出身の方で内容の検討や聞き取りが行われ、当時のエピソードをイラスト付きで掲載することで生業などの様子が深堀りされた物になりました。

完成したマップは地元の小中高校生を対象としたふるさと教育の里道歩きに使用され、地域の未来を担う世代の育成に大きく貢献しています。

また、ガイドの説明を聞きながら里道を歩くトレッキングや町内の新規就労者を対象にした懇親イベントにも使用され、広い世代へ重要文化的景観の魅力と価値の発信に活用されています。



散策マップ



地元の方も参加したマップの内容検討会



ふるさと教育



ネイチャーガイドによるトレッキング

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり